

認知症高齢者のグループホームに関する研究 その7

—千葉県内のグループホームを対象として—

日大生産工 川岸 梅和
日大生産工(院) ○山根 恭介
日大生産工(院) 小泉 真規

1. 研究の目的

前項に引き続き本稿では、調査対象としたグループホームの建築行為を類型化した上で、各グループホームの周辺環境を把握するために、グループホームを中心とした半径200m圏域内の土地利用状況を調査し、クラスター分析を行った。その方法は「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究(その4)」と同様である。その結果グループホーム周辺の土地利用比率についてI類、II類、III類の3類型に分類した。(図1)

グループホームの建築行為及びグループホーム周辺の土地利用状況により類型化を行い、比較・分析しそれぞれの特性を把握することを目的としている。

2. グループホームの建築行為及び周辺の土地利用状況による類型化^{※1)}

I類では59グループホームが該当し、調査範囲内の土地利用の内訳は住宅用地が14.01%、商業用地が4.07%、農業用地が2.99%である。主要5項目以外の項目では道路等の用地の割合も18.47%と高い。よって、市街地近郊の住宅地であると考えられる。

II類では、25グループホームが該当しており調査範囲内の内訳は住宅用地が12.22%、商業用地が4.44%、農業用地が18.51%である。I類よりも住宅用地の割合は少なく、農業用地の割合が高い。よって、郊外の住宅地であると考えられる。

III類では37グループホームが該当しており調査範囲内の内訳は住宅用地が5.49%、商業用地が1.42%、農業用地が45.96%である。農業用地が半数近くを占めており、住宅用地の割合が他の類型に比べ小さい。また、その他の用途もわずかである。よって、農村部であると考えられる。

グループホームの建築行為及び周辺の土地利用状況により以下のように類型化を行った。

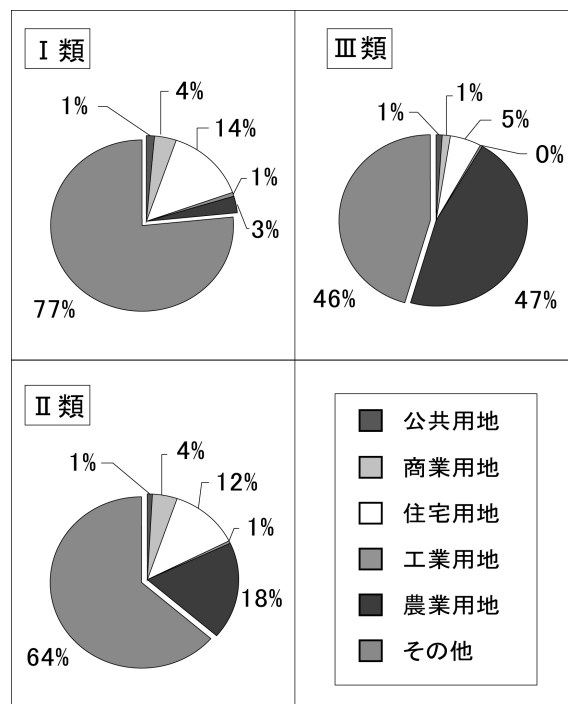


図1 類型別土地利用比率

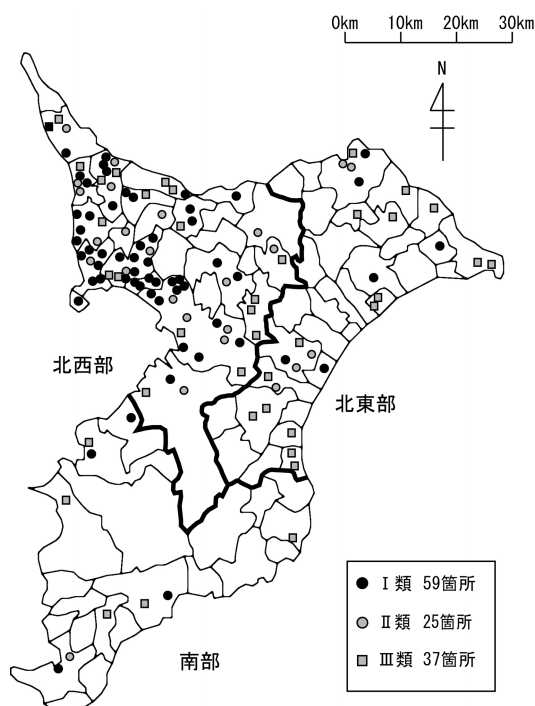


図2 地域分布図

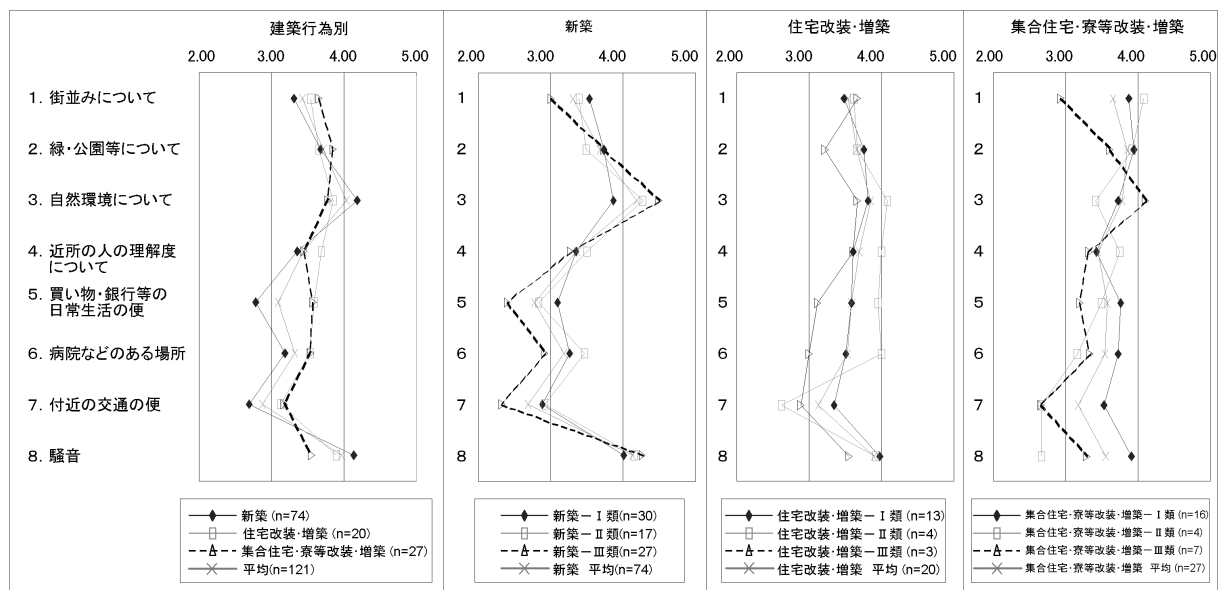


図3 周辺環境についての評価

- 1) 新築Ⅰ類：30 グループホーム
- 2) 新築Ⅱ類：17 グループホーム
- 3) 新築Ⅲ類：27 グループホーム
- 4) 住宅改装・増築Ⅰ類：13 グループホーム
- 5) 住宅改装・増築Ⅱ類：4 グループホーム
- 6) 住宅改装・増築Ⅲ類：3 グループホーム
- 7) 集合住宅・寮等改装・増築Ⅰ類：16 グループホーム
- 8) 集合住宅・寮等改装・増築Ⅱ類：4 グループホーム
- 9) 集合住宅・寮等改装・増築Ⅲ類：7 グループホーム

3. 地域分布と面積構成の検討

調査対象グループホーム121箇所内、約70%の85箇所が千葉県北西部に位置している。さらに周辺環境による類型ごとの内訳は、「Ⅰ類」は北西部に50箇所、北東部に6箇所、南部に3箇所である。「Ⅱ類」は北西部に19箇所、北東部に5箇所、南部に1箇所である。「Ⅲ類」は北西部に18箇所、北東部に16箇所、南部に3箇所である。特に「住宅改装・増築Ⅰ類」はすべてのグループホームが北西部に位置している。

周辺環境による類型ごとの面積(表1)を比較してみると、主要空間にはそれほどの大きな違いは見られなかったが、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類の順に1ユニット当たりのLDK面積は大きく、逆に1ユニット当たりの居室面積はⅢ類、Ⅱ類、Ⅰ類の順に大きくなった。使用床面積はⅢ類が他の類型よりも大きい。これはⅠ類及びⅡ類よりも大きな敷地が確保しやすいためと考えられる。

4. 周辺環境の評価

建築行為の類型において、新築は8項目中5項目にお

表1 周辺環境類型 面積表(単位:㎡)

		LDK	浴室	脱衣所	トイレ	居室面積	その他	使用床面積	全共用面積
Ⅰ類 (n=59)	1ユニット当たり	49.34	5.96	5.69	9.14	102.10	99.17	267.65	107.48
	一人当たり	5.94	0.72	0.68	1.10	12.28	11.93	32.20	12.93
Ⅱ類 (n=25)	1ユニット当たり	47.93	5.18	5.90	6.57	102.35	101.57	266.77	114.19
	一人当たり	5.50	0.59	0.68	0.75	11.74	11.65	30.60	13.10
Ⅲ類 (n=37)	1ユニット当たり	46.32	6.83	5.46	10.50	107.79	107.85	285.76	119.30
	一人当たり	5.51	0.81	0.65	1.25	12.82	12.82	33.98	14.19
平均 (n=121)	1ユニット当たり	48.10	6.08	5.66	9.05	103.95	102.40	273.20	112.58
	一人当たり	5.71	0.72	0.67	1.07	12.34	12.15	32.43	13.36

いて類型中最も低い評価となっている。特に「買い物・銀行等の日常生活の便」「付近の交通の便」の2項目の評価が低い。新築は全体の約60%がⅡ類とⅢ類に立地しており、このことが上記の2項目の評価を低くしていると考えられる。住宅改装・増築は「近所の人の理解度」において類型中最も高い評価である。元々住宅であったため、グループホームに改修された後も他の類型に比べ地域住民に受け入れやすいコミュニティが継続されていると考えられる。集合住宅・寮等改装・増築では、「自然環境について」「騒音」以外の6項目は平均値を上回り高い評価といえる。

新築において、Ⅲ類の「買い物・銀行等の日常生活の便」「病院などのある場所」「付近の交通の便」の3項目の評価が低い。「自然環境について」の評価は3類型ともに高い。評価に多少の差はあるが、新築のⅠ類、Ⅱ類、Ⅲ類はグラフの形状は類似している。よって類型による違いは少ないといえる。

住宅改装・増築において、Ⅱ類は「付近の交通の便」以外の項目の評価が高い。Ⅲ類は「緑・公園等について」「買い物・銀行等の日常生活の便」「病院などのある場所」「付近の交通の便」の4項目の評価が低い。Ⅰ類はほぼ平均値に近い評価の項目が多く、Ⅱ類の評価が高く、Ⅲ類の

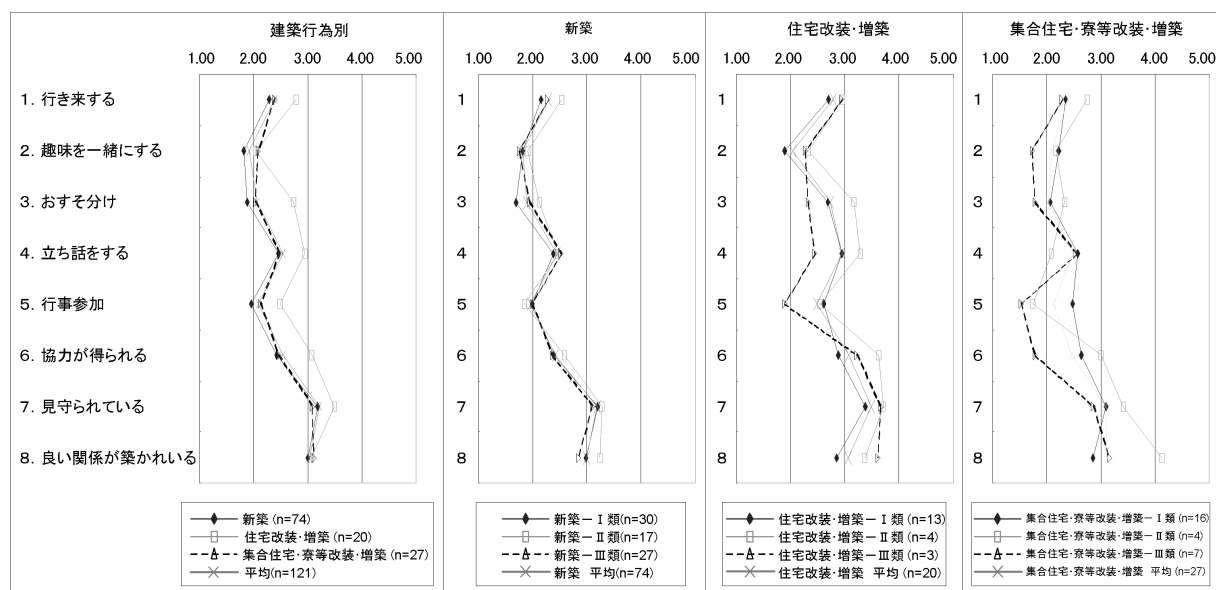


図4 地域とのコミュニケーションの評価

評価が低いといえる。

集合住宅・寮等改築・増築において、I類は「買い物・銀行等の日常生活の便」「病院などのある場所」「付近の交通の便」「騒音」の4項目において最も高い評価である。また、その他の項目においても「自然環境について」以外の項目は平均値以上であり、全体として高い評価を得ている。II類は「病院などのある場所」「付近の交通の便」「騒音」の評価が低く、「街並みについて」「緑・公園等について」「近所の人の理解度について」の評価が高い。III類は「街並みについて」の評価が最も低い。

全類型を通して「付近の交通の便」の評価が低く、「自然環境について」の評価が高いといえる。グループホームが認知症高齢者を対象としているため、自然環境の整った場所が選ばれやすいといえる。また通所施設とは違いその場所で生活を行うため、交通の便等の利便性よりも自然環境を優先している現状が考えられる。特に各類型III類の利便性に関わる項目が低い評価となっており、農村部に立地するグループホームの現状を表しているといえよう。

5. 地域とのコミュニケーションの評価

建築行為の類型において、住宅改築・増築が8項目中6項目において最も高い評価である。新築及び集合住宅・寮等改築・増築には顕著な差が見られないが、集合住宅・寮等改築・増築がやや高い評価である。

新築において、II類がやや評価の高い項目が多いが、類型ごとに大きな違いは見られない。周辺環境の類型に

関わらず、地域とのコミュニケーションはあまり取られていないといえる。

住宅改築・増築において、II類は「行事参加」「良い関係が築かれている」以外の6項目において、類型中最も高い評価となっている。特に「おすそ分け」「立ち話をする」の評価が高く、他の類型に比べ直接地域住民と触れ合う機会が多いと考えられる。III類は「おすそ分け」「立ち話をする」「行事参加」の3項目の評価が低く、コミュニケーションはあまりとられていないといえよう。

集合住宅・寮等改築・増築において、II類は「協力が得られる」「見守られている」「良い関係が築かれている」の評価が高い反面、「立ち話をする」「行事参加」の評価が低い。I類は「立ち話をする」「行事参加」の評価が他の類型に比べて高い。III類は各項目ともに評価が低い。

全類型を通して、直接地域住民と触れ合うコミュニケーションが、あまりとられていない現状である。「見守られている」「良い関係が築かれている」のアンケート評価が比較的高いことから、グループホームに対して理解を示していると考えられるが、満足できるコミュニケーションをとるまでは至っていないといえよう。

6. 近くに欲しい施設の評価

建築行為の類型において、「欲しい」と答えた割合が50%を上回る項目及び類型間の差が顕著な項目において比較・分析を行った。

新築では類型中最も多い5項目において50%を上回っている。「1.スーパーマーケット」「3.公園」「4.医療機

表2 近くに欲しい施設の回答数 (単位：%)

有効回答数		1. スーパーマーケット	2. 図書館	3. 公園	4. 医療機関	5. 商店街	6. 銀行・郵便局	7. 公民館	8. コンビニ	9. 様々な人と交流できる施設	10. 博物館・美術館	11. 高齢者が集まれる施設	12. 幼稚園・学校	13. 娯楽施設	14. 公共施設	15. その他	無回答
100	新築 I 類	61.0	41.0	65.0	56.0	53.0	27.0	26.0	22.0	60.0	25.0	60.0	39.0	33.0	3.0	9.0	1.0
54	新築 II 類	59.3	33.3	57.4	57.4	40.7	18.5	24.1	22.2	61.1	31.5	53.7	38.9	31.5	3.7	5.6	3.7
96	新築 III 類	65.6	39.6	67.7	57.3	44.8	24.0	20.8	16.7	66.7	29.2	58.3	39.6	27.1	7.3	5.2	0.0
250	新築 平均	62.4	38.8	64.4	56.8	47.2	24.0	23.6	20.0	62.8	28.0	58.0	39.2	30.4	4.8	6.8	1.2
32	一般住宅 改装・増築 I 類	65.6	28.1	68.8	59.4	53.1	21.9	21.9	9.4	62.5	34.4	68.8	28.1	34.4	15.6	28.1	6.3
11	一般住宅 改装・増築 II 類	27.3	0.0	90.9	36.4	9.1	18.2	27.3	18.2	45.5	27.3	81.8	9.1	27.3	18.2	0.0	0.0
8	一般住宅 改装・増築 III 類	37.5	0.0	50.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	62.5	25.0	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0
51	一般住宅 改装・増築 平均	52.9	17.6	70.6	49.0	35.3	19.6	19.6	11.8	58.8	31.4	68.6	19.6	29.4	15.7	17.6	3.9
42	集合住宅・寮等 改装・増築 I 類	57.1	26.2	64.3	57.1	47.6	23.8	19.0	16.7	45.2	31.0	38.1	31.0	38.1	7.1	9.5	11.9
6	集合住宅・寮等 改装・増築 II 類	83.3	16.7	83.3	66.7	66.7	33.3	16.7	16.7	66.7	16.7	50.0	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0
18	集合住宅・寮等 改装・増築 III 類	55.6	22.2	72.2	50.0	27.8	11.1	11.1	11.1	44.4	27.8	33.3	22.2	38.9	11.1	11.1	5.6
66	集合住宅・寮等 改装・増築 平均	59.1	24.2	68.2	56.1	43.9	21.2	16.7	15.2	47.0	28.8	37.9	30.3	37.9	7.6	9.1	9.1
367	全体 平均	60.5	33.2	65.9	55.6	45.0	22.9	21.8	18.0	59.4	28.6	55.9	34.9	31.6	6.8	8.7	3.0

関「9.様々な人と交流できる施設」「11.高齢者が集まれる施設」(以下番号で項目を示す)の5項目である。項目1.4.は利便性を高める施設、項目3.9.11.はコミュニケーションがとれる場であるといえ、新築においてこれらが不足していると考えられる。住宅改装・増築では新築においても含まれていた、項目1.3.9.11.において50%を上回った。項目4.は50%を下回っているが、全体的に新築と同傾向にあると考えられ、コミュニケーションがとれる場に対し需要があるといえよう。集合住宅・寮等改装・増築では項目1.3.4.において50%を上回った。項目9.11.は50%を下回っており、他の類型に比べコミュニケーションがとれる場に対しての需要が少ないと考えられる。

周辺環境による類型化ごとに比較すると、新築ではI類でのみ項目5.の回答率が50%を超えている。しかし、全ての項目において類型による違いは少ないといえ、周辺環境の影響は小さいと考えられる。住宅改装・増築ではI類において6項目(項目1.3.4.5.9.11.)が50%を超えている。II、III類ではそれぞれ2項目(項目3.11.)、3項目(項目3.9.11.)であった。II類とIII類では、回答率の高い項目に大きな違いは見られない。I類と他の2類型では利便性に関する項目に違いが見られ、I類において需要が多いといえる。集合住宅・寮等改装・増築では、II類において7項目(項目1.3.4.5.9.11.12.)が50%を超えている。I類及びIII類は3項目(2類型ともに項目1.3.4.)である。II類においてコミュニケーションの場に対する需要が多く、また他の類型よりも「12.幼稚園」の回答率が高いことから、異世代、特に小さい子どもたちとの交流を求めていると考えられる。

7. まとめ

1) 新築は、各評価ともに類型ごとの相違はあまりみら

れないため、周辺環境の影響が少ないといえよう。設立場所を選べるため、周辺環境には違いがあっても、利便性等の条件が整った場所を選定することが可能であるためと考えられる。

2) 総体的に利便性に満足できていない類型が多く、新築—II類、III類は特に低い評価である。また、各類型ともにIII類は利便性の評価が低く、農村部に立地するグループホームにとって重要な課題である。

3) 地域とのコミュニケーションにおいて、建築行為では住宅改装・増築、周辺環境の類型ではII類が良好である。しかし、住宅改装・増築—II類以外において直接的な関わりは少ないといえる。また、住宅改装—II類も近くにコミュニケーションが生まれる場を望んでいるため、グループホームとしては、まだ地域とのコミュニケーションは不足していると考えられる。

4) I類は類型中最も商業地域の割合が高いにもかかわらず「1.スーパーマーケット」や「5.商店街」の回答率が高い。市街地近郊の住宅地であっても高齢者が生活を行う場合、利便性について満足できないと考えられる。

今後、周辺環境及び平面構成を関連させ分析し、グループホームにおける高齢者の生活を把握し、各々の関係性を調べグループホームに活かすことを課題とする。

※1) 周辺環境の調査では、以下のような土地利用の用途においても分類を行ったが、クラスター分析後の類型の特徴を明確にするため主要5項目でクラスター分析を行った。「その他」の詳細を以下に示す。

	宅地(空地)	屋外利用地	公園・運動場	未利用地	道路等	水面・河川・水路	森林	原野	その他	合計
I 類	34.2%	7.0%	6.0%	3.0%	18.5%	1.5%	5.3%	1.2%	0.3%	77.0%
II 類	33.2%	3.4%	1.2%	2.5%	13.3%	0.2%	8.0%	1.1%	1.1%	64.0%
III 類	18.3%	1.6%	1.4%	1.7%	8.0%	0.8%	11.0%	2.7%	0.1%	45.6%

本論文に関連する既発表論文

- 1) 川岸 梅和, 染谷 佐登子, 梅木 千恵子「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究 - 千葉県内のグループホームにおけるケーススタディ -」日本建築学会計画系論文集 第580号, 141-147, pp. 2004. 6
- II) 川岸 梅和 他「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究. その2-4」日本大学生産工学部学術講演会建築部会講演概要, 第33回, pp. 121-124, 2000. 12 第34回, pp. 89-92, 2001. 12 第35回, pp. 5-8, 2002. 12 第36回, pp. 247-250, 2003. 12
- III) 川岸 梅和, 染谷 佐登子, 半沢 英理子「痴呆性高齢者グループホームの立地環境及び住空間構成に関する研究 - 千葉県内のグループホームにおけるケーススタディ -」日本大学生産工学部研究報告 A, pp. 9-20, 2002.